

武蔵村山市立歴史民俗資料館報

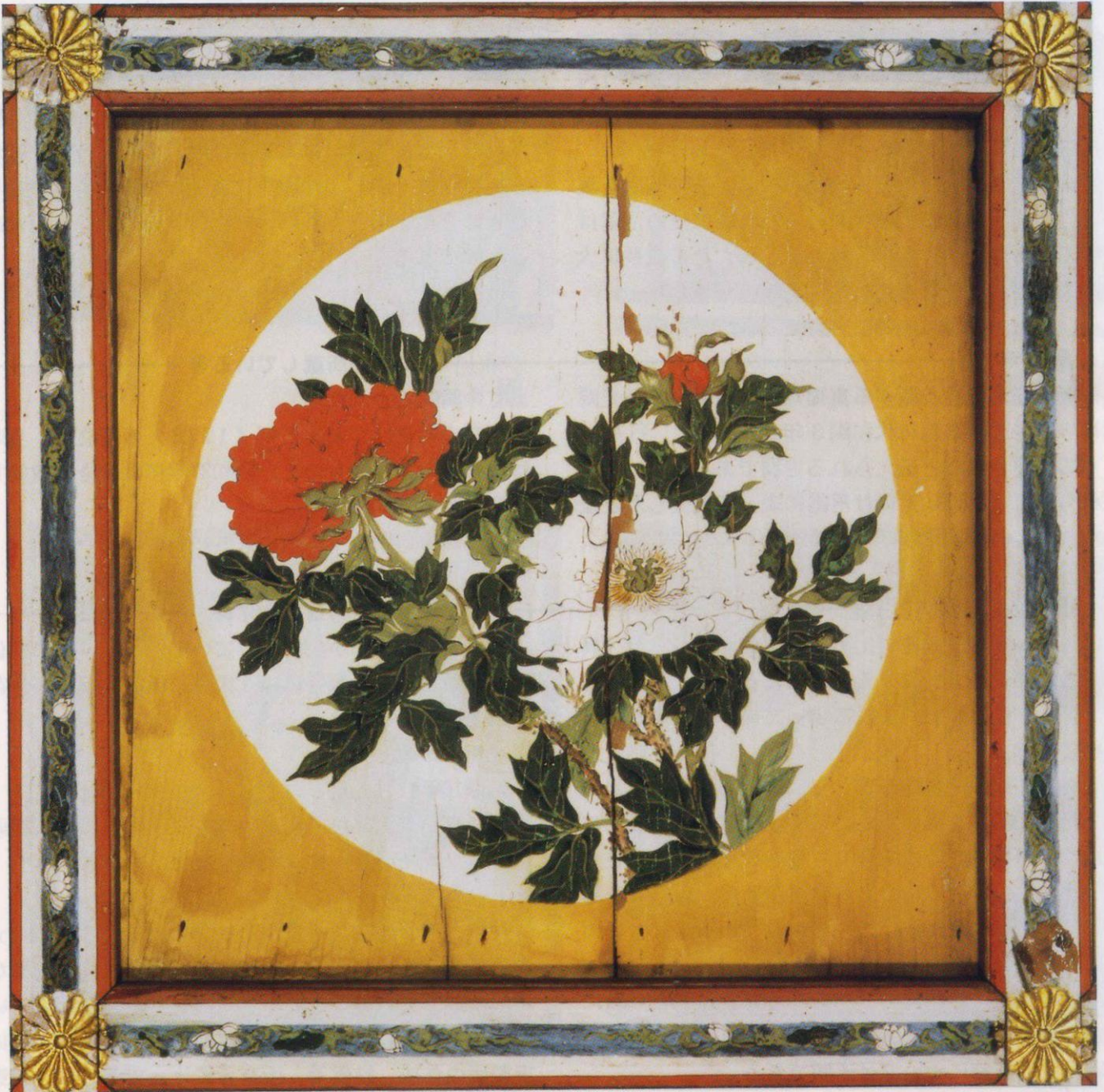
# 資料館だより

第 7 号

昭和61年 7 月10日

編集・発行 武蔵村山市立歴史民俗資料館

武蔵村山市中藤6343 TEL 0425(60) 6620



牡丹(ほたん)

市指定文化財「真福寺格天井花鳥画」



# 特別展 「真福寺格天井花鳥画」

期間 7月20日～9月21日

## 1. はじめに

花鳥画とは、草花や鳥など（花卉、鳥虫）を描いた東洋画の総称である。

幕府が江戸に開かれ、江戸を中心に政治・経済が積極的に展開し始めると、すでに混乱期を脱し、社会生活はその安定を増し、芸術・文化・娯楽などの分野も大きく発展し、庶民生活にも広く浸透していった。

特に絵画芸術等の分野では、幕府初代の御用絵師となった「狩野深幽」を始め、装飾画の「尾形光琳」浮世絵の「喜多川歌麿」・「葛飾北斎」、写生画の「円山応挙」文人画の「谷文晁」等々、多くの画人が時代の推移と共に活躍することとなった。

この中でも、江戸に文人画を導入し、その基礎を築き、当時江戸随一の大家と称せられた谷文晁の活躍は多摩の絵師の誕生に大きく関与し、またその成長に大きな影響を与えることになった。

真福寺格天井花鳥画は、この谷文晁の弟子にあたる「石川文松」によって、天保10年頃、描かれたものであり、現在、武蔵村山市指定文化財となっている。

そして、この「真福寺格天井花鳥画」は、昭和60年度から所有者によりその保存措置が実施され、この機会に市教育委員会によって、写真による記録保存が行われた。

そこで今回、これら写真による花鳥画の一般公開を、特別展として実施するもので、その展示内容は、所有者の協力も得て、実物花鳥画4点、保存措置に伴って作製された複製画4点、写真20点の展示公開を行い、特にこの特別展を通し、江戸時代後期の絵画芸術の一端を浮きぼりにするとともに、文化財保護の大切さを求めるものである。

## 2. 真福寺

### 花鳥画を所蔵している寺

格天井花鳥画を所蔵する真福寺は、龍華山清浄光院真福寺と号し、奈良時代和銅3年（710年）、行基によって創建されたと伝えられる古刹である。

承久2年（1220）には落雷によって焼失したと伝えられ、その後、正応3年（1290）に龍性法師によ

って中興開山された。

現在の本堂は、安永7年（1778）の建立で、当時は萱葺きであったものを、昭和27年に瓦葺きに改築し、現在に至っている。

花鳥画は、この本堂の格天井に描かれている。

## 3. 真福寺格天井花鳥画

### 武蔵村山市指定文化財

昭和51年4月、武蔵村山市指定文化財となった「真福寺格天井花鳥画」は、先にふれたとおり天保10年頃（1839）に絵師石川文松によって描かれ、総数200枚を数える。

画材は杉板に胡粉をほどこし、その上に絵具を用いて「花」「鳥」を描いたものです。特に花は一般的に見られる植物を中心に総数100枚を数え、鳥は実在する鳥が64枚、空想の鳥である鳳凰が構図、色彩等を異にして35枚、中央に龍が1枚描かれている。なお絵の大きさは直径45cmある。

真福寺の当時の記録を調べてみても、この花鳥画についての記録は少なく、花鳥画の描かれた経過や、その経費など詳細については不明である。

ただ「指田日記（市指定文化財）」によると、次の

ように当時の様子が記録されているほか、これに関係する書類として真福寺には「天井彩色勸化帳」が保存されている。

「指田日記」抜粋

天保10年11月6日

「真福寺天井色彩出来ニヨリ院主両里正年寄組頭打ソロイ小前百姓ヲ軒別ニ勸化ヲススメシム」

なお、現状の花鳥画は胡粉に含まれている「にかわ」の粘着力が無くなっていることと、絵具自体も同様な状況になっていることから、そのいたみが進行している。そこで現在、専門家による原画の修復作業と共に複製画の作成、設置等、所有者によってその保存対策が講じられている。

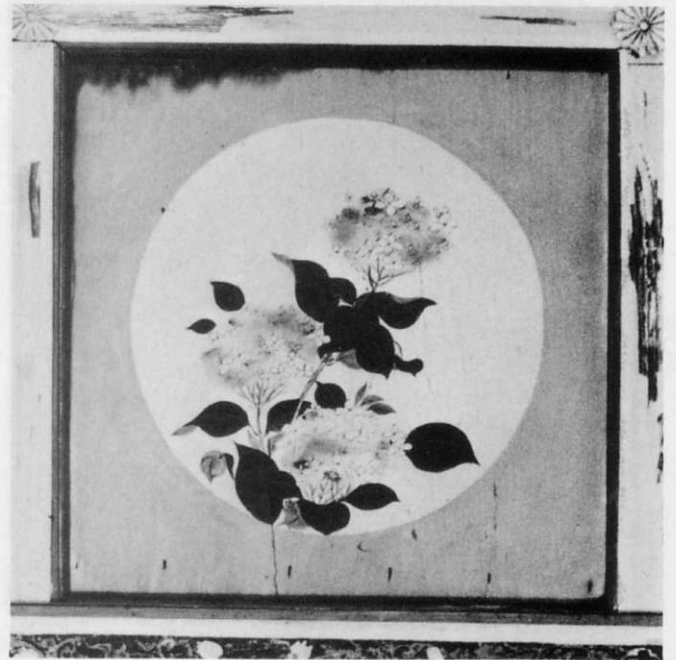
#### 4. 写真で見る花鳥画

特別展「真福寺格天井花鳥図」にちなみ、すでにフィルムにより記録保存の完了した200枚の写真の内か

ら、本号館報では特にその名称と共に12枚の花鳥画を紹介します。



(ほう おう)  
鳳 凰



(あじさい)  
紫陽花



(かん び)  
岩 菲 ？



(つばめ)  
燕



(いぬ わし)  
犬 鷲



(ゆり)  
百 合



(きく)  
菊



(おなが)  
尾長?





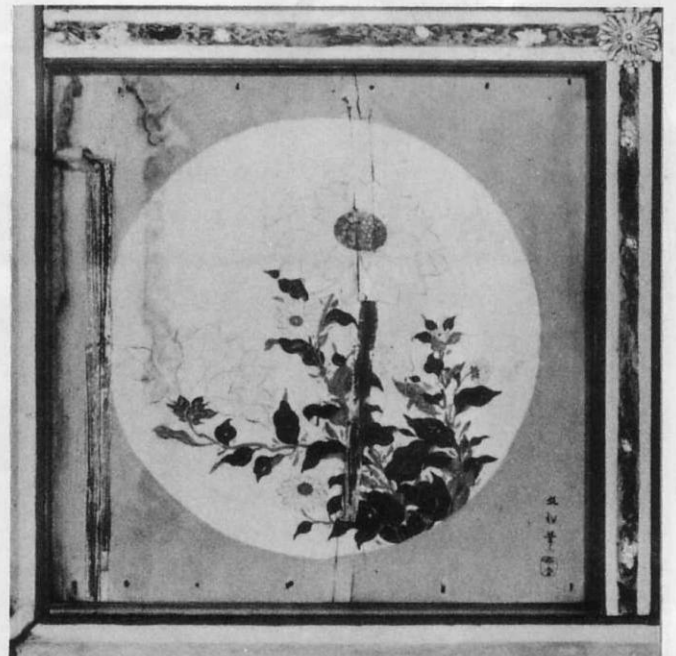
(やぶらん)  
藪 蘭



(おしどり)  
鴛 鴦



(くじやく)  
孔 雀



(てんじくぼたん)  
天竺牡丹 (ダリヤ)?

## 5. 石川文松

## 花鳥画を描いた絵師

江戸時代後期の多摩の絵師として、その名を残す一人が、石川文松である。氏は石川で、名を松五郎といい、雅号を文松という。父は吉兵衛といい、小井沢氏を母として寛政10年（1798）武州青梅（東京都青梅市）に生まれた。

幼少の頃から絵を好んで描いたといわれる文松は、当時の文化の中心地であった江戸に出て、蒔絵師を志した。

しかし、当時の江戸画壇には、江戸文人画の絵師で江戸随一の画塾を誇っていた谷文晁があり、文松は転じて絵師を志し、その門に入った。

特に埼玉県所沢市の山口観音堂にある碑文によれば文松はその師文晁と数年の間生活を共にしながら、画技の修業を積んだ。文晁は石川文松の才能を認め懇切に指導したといわれている。雅号の「文松」は、文晁より「文」の一字を与えられたものと考えられる。

画業の成った後の文松は、青梅に帰り絵師のかたわら豆腐店を営んだともいわれている。このことは、この地に「とうふや文晁」の俗称が残されていることから推測できる。

その後、40歳の頃文松は、当時の入間郡勝楽寺村に居を移し、晩年までおよそ20年間をこの地域で絵師としての生活を送った。

安政4年（1857）5月18日、享年60歳を以って埼玉県所沢市三ヶ島で没した。墓は三ヶ島の妙善院の境内にあり、法名「玉鱗文松居士」と記されている。

絵師石川文松の代表作は、埼玉県所沢市指定文化財山口観音堂の大絵馬「六歌仙図」（写真Ⅰ）や武蔵村山市指定文化財「真福寺格天井花鳥画」などであり、このほか同じ真福寺本堂板戸8枚に描かれている「十六羅漢画」（写真Ⅱ）などがある。



写真Ⅰ  
六歌仙図



写真Ⅱ  
十六羅漢画

## 民俗コーナー 「酒器」

酒器とは、酒宴のときに酒を入れたり飲んだりするための容器、つまり、銚子・徳利・盃（盃台）などを総称して酒器という。さらに、酒の運搬・貯蔵のための酒樽などの容器を含めることもある。

当資料館には、当時の村山で使用されたこれらの貴重な酒器が保管されています。今回の文化財アラカルトでは、これら資料館において展示・保管されている酒器について写真を用いながら紹介します。

### 銚子（チョウシ）

注ぎ口のある鍋形の容器に長柄を付けたもので、酒を盃に注ぐのに用い、サシナベ、サスナベなどとも呼ぶ。注ぎ口には、片口と両口とがあり、片口は婚礼などの儀式に用い、両口は多数の宴会用といわれている。

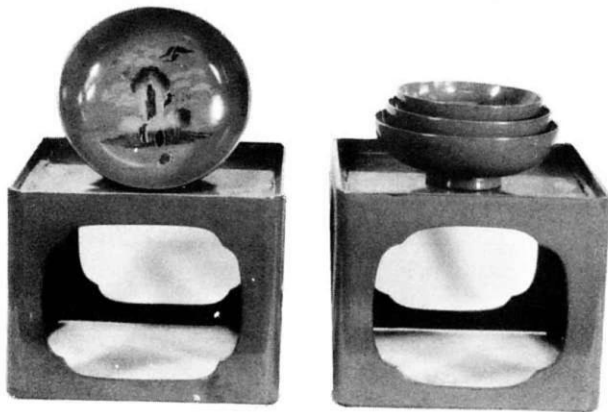
また銚子の類には、柄のかわりに鉸ツルをつけた提子ヒサゲがある。近世後期には、酒宴に爛徳利を用いるようになったが、これは清酒を温めるための容器で、近代以降この爛徳利を称して、銚子と呼ぶようになった。



### 盃（サカヅキ）

酒を飲む容器。正式な儀式には、通常、大小三重の木製の漆塗りの朱盃が用いられる。

ここに写真で紹介する盃は、盃台サカヅキダイと共に使用する冷酒用のものである。現在の盃は、小器で主に爛酒を飲む。特に陶磁器製の小盃は、猪口チヨコとも呼ばれ、一般的に陶製の爛徳利に伴って使用されている。



### 徳利（トクリ）

中世後期からの呼び名で、得利、徳裏などの字をあてることもある。もとは酒のほか、酢や醤油などを入れる容器でもあったが、今では主に、酒の容器をさす。

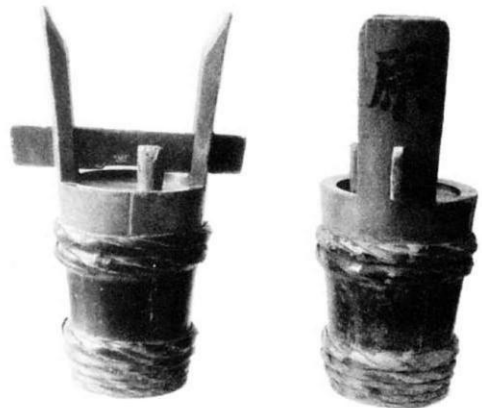
徳利の大きさは大小さまざまだが、五合以上の徳利は、酒店の貸容器として用いられたとされ、備前、丹波、瀬戸の焼成品が多い。特に一〜二合入りの小徳利は、爛徳利として、清酒を爛して飲む習慣と共に、現在でも多く利用されている。



### 角樽（ツノダル）

酒樽の一種。一般に厚手の板を用い、特に手提げの柄を角のように大きく作り、竹タガを巻き、朱、黒漆などを塗った柄樽をいう。

角樽には、五合、一升、三升入りなどがあり、江戸時代には、婚礼、祭礼、棟上などの祝儀のときに酒を贈る容器として使用された。



昭和61年度 歴史民俗資料館事業

※問い合わせ 歴史民俗資料館 (60-6620)

番号	区分	事業名	内容	実施時期	会場	対象者
1		特別展「真福寺格天井花鳥画」	真福寺格天井花鳥画についての展示	7/20～9/21	資料館	入館者
2		写真展「武蔵村山市の今と昔」	収集写真の公開	11/16～12/14	〃	〃
3		作品展「子供達のつくった縄文土器」	縄文土器づくり教室の成果の発表	S62 3/1～3/29	〃	〃
4		初級古文書講座	古文書解読の手ほどき	5/27～8/5までの隔週の火曜日	中部地区会館 402学習室	一般市民 (申込み必要)
5		中級古文書講座	古文書解読と近世史の学習	9/30～12/9までの隔週の火曜日	市民会館	〃
6		歴史講座	多摩地方の絵師 天保時代の村山	8/10 9/7	資料館	〃
7		体験教室	過去の生活の体験	11/2	〃	〃
8		縄文土器づくり教室	土器づくり	8/1 8/2 9/14	〃	小学4～6年生 (申込み必要)
9		子供自然教室	狭山丘陵の植物	S62 3/26～3/29	資料館 及び狭山丘陵	〃
10		文化財映画鑑賞会	文化財映画の上映	7/209/281/30 S62 1/25 3/22	資料館	入館者

資料館利用状況 (昭和60年4月1日～昭和61年3月31日)

(1) 利用状況

(2) 参考(市外利用者の状況)

区分	開館日数	利用者数	市内		市外		区分	市外利用者数	三多摩地区		23区		都外地	
			人数	割合	人数	割合			人数	割合	人数	割合	人数	割合
S60, 4	23 <sup>日</sup>	1,685 <sup>人</sup>	892 <sup>人</sup>	52.9 <sup>%</sup>	793 <sup>人</sup>	47.1 <sup>%</sup>	S60, 4	793 <sup>人</sup>	517 <sup>人</sup>	65.2 <sup>%</sup>	132 <sup>人</sup>	16.6 <sup>%</sup>	144 <sup>人</sup>	18.2 <sup>%</sup>
5	24	1,604	900	56.1	704	43.9	5	704	519	73.7	76	10.8	109	15.5
6	20	739	444	60.1	295	39.9	6	295	220	74.6	30	10.2	45	15.3
7	25	1,367	894	65.4	473	34.6	7	473	332	70.2	77	16.3	64	13.5
8	26	2,233	1,337	59.9	896	40.1	8	896	584	65.2	151	16.9	161	18.0
9	22	747	446	59.7	301	40.3	9	301	226	75.1	23	7.6	52	17.3
10	25	1,123	448	39.9	675	60.1	10	675	544	80.6	54	8.0	77	11.4
11	23	1,152	480	41.7	672	58.3	11	672	128	19.0	490	72.9	54	8.0
12	22	497	277	55.7	220	44.3	12	220	142	64.5	31	14.1	47	21.4
S61, 1	22	752	469	62.4	283	37.6	S61, 1	283	164	58.0	53	18.7	66	23.3
2	22	1,012	586	57.9	426	42.1	2	426	297	69.7	60	14.1	69	16.2
3	24	1,401	930	66.4	471	33.6	3	471	309	65.6	78	16.6	84	17.8
合計	278	14,312	8,103	56.6	6,209	43.4	合計	6,209	3,982	64.1	1,255	20.2	972	15.7